



横田さんの送別会に大勢の卒園生たちが参集しました (前列右から3人目が横田さん)

感謝

水上の友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
 〒618-0001
 大阪府三島郡島本町
 山崎5丁目3-18
 発行人 黒川 芳 朝
 編集 広報委員会
 法人事務局 075-961-0711
 F A X 075-961-1144
<http://www.osakasuijyorinpokan.com/>
 印刷所 (有)木村桂文社

隣保館は私の人生の全て

横田 (旧姓 安田) 恵子

私は、本年三月末に大阪水上隣保館を定年退職しました。振り返れば、二歳〜十五歳まで隣保館で育ち、後に約三十年間(十九歳〜二十二歳、三十九歳〜六十五歳)職員として勤めさせて頂きました。ですから私にとって、水上隣保館は人生そのものです。

子どもの頃の私は食事の好き嫌いが多く、聞かれたことの返答もできずにいて、いつも叱られていました。そのため、先生の前では小さくなって心を閉ざしていたように思います。

素直に自分の思いを話せるようになったのは、小学五年生くらいでしょうか。先生から優しい声をかけてもらえるようになりました。学校も大好きでしたが、中学一年の時、関節炎に罹り、医師から徒歩通学を止められ、ホームで悶々としていた時期があります。数年前、当時の先生たちにお会いした時、「あの頃はストレスが溜まっていたんだろウネ…」とお聞きし、「解ってくれてんだ」と、驚きとともに何かホッとして涙が出そうでした。

二〇一八年標語
愛はこのために譲らず
真実を尊び、すべてを包む
 一新約聖書・コリントの信徒への手紙 一三章四七節

このような先生方を見ていて、私も保育士になり、子どもの思いを聞いてあげたいと考え始めました。中学三年になり、保育士になろうと家に戻って定時制高校に通い、卒業後、遙先生の薦めで法人内の保育専門学校に入りました。隣保館でアルバイトをしながら学校に通って資格を取り、しばらく隣保館の補助をしました。

当時は卒園生が職員になることはなく、私は、常に『卒園生』でした。「ご飯もなかなか食べず、何時もしかめっ面。大変やった…。なのに先生!?’と言われたことが忘れられません。

結局、思うような仕事ができず悩み、二年余りで辞めました。その後結婚。二人の娘を育てながら保育所に勤めたこともありましたが、再び隣保館で働きたいの思いは募る一方でした。

ママ先生が小羊保育園を紹介して下さい、その後、高学年の子どものホームを担当しました。当時の隣保館は小舎制で、食事もホームでつくります。自分の辛い経験から、美味しく食べてもらえるよう味付も工夫しました。また、ホームの子どもは「自分が守る」という気持が強く、子どもが悪さをしても他の職員から注意されると、すこく辛く落ち込みました。

子どもたちは登校しても、教室を抜け出したり、喧嘩したりと、トラブルだらけ。毎日のように学校に呼び出さ

れました。なのに子どもたちには十分話しを聞いてあげられず、口から出るのは厳しい言葉ばかり。それも、自分の体験から『やっぱり施設の子』と言われないようにという気持ちが先走っていたからだと言っています。

その後、事務所に移りましたが、子どもたちは、同じ匂いがするのかわ、よこばあ、よこばあ…と親しく接してくれます。「もっと自分に関わってほしい」「認めてほしい」という子どもの願いを改めて実感します。現状や職員への不満も聞き、自分のことを思い出し悲しくなることもしばしばです。

卒園生からは、「本当に恐かった」と今も言われますが、何回も送別会を開いてくれました。この仕事を続けて本当に良かったと思っています。
 (卒園生・元職員)

暑中お見舞い申し上げます

わたしたちは知っています。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。

—ローマの信徒への手紙 五章三四節—

本年六月、大阪を震度六弱の地震が襲いました。お見舞い、ご心配の声をお寄せ頂き有り難うございます。幸い、本法人に被害はほとんど生じませんでした。ご安心下さい。

暑さ厳しき折柄、皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

二〇一八年 盛夏

社会福祉法人 大阪水上隣保館

児童養護施設「翼」が 開設しました

ホームページや、一昨年の水上の友一・二九号でもお知らせしていました児童養護施設「翼」が二〇一八年一月一日に開設しました。

翼の概要

- ・住所 豊中市宝山町十六ー八(最寄り駅 阪急岡町駅より徒歩約十分)
- ・電話 〇六一六二一〇一六六一
- ・施設名 翼(子どもたちが未来に向かってはばたいていけるようにという思いを込めています。法人内施設職員から公募し、理事・評議員に投票をいただき、決定しました)
- ・定員 児童養護施設二十四名 乳児院小規模グループケアたんぼホーム六名(〇歳の乳児から十九歳までの子どもたちが生活できる施設)

六月十二日現在「翼」十七名「たんぼホーム」六名在籍
 ・鉄骨造り三階建て(一階・事務所、たんぼホーム、二階・男子ホーム、三階・女子ホーム)
 ・通学校区(克明小学校、第五中学校、人権まちづくりセンターこども園)
 ・付帯事業

- 〇豊中市子育て短期支援事業(シヨートステイ・トワイライトステイ)
- 〇豊中市子ども総合相談電話窓口業務(夜間休日電話相談事業)

開設当初の児童は保護者が豊能地域の住所になる遙学園の子ども五名と乳児院からの四名が二〇一七年末の十二月二十七日に引っ越ししました。一月四日には、引っ越しと新年のご挨拶で近隣に伺いましたが、皆様があたたかく笑顔で迎えて下さり、安心して生活を始めることができました。

開設後も関心を持ってくださる方々が施設を訪ねて来られ、近隣の農家の方からは地元で穫れたお米約二〇〇kgをいただきました。また、新聞配達所の方は子どもたちが自転車の練習をしているのを見られ、自転車募集のチラシを配ってください、すてきな自転車が手に入り、子どもはすでにサイクリングに行けるまでになりました。地域のニーズに耳を傾け、さらに地域に愛される施設を目指していきたいと思えます。
 (総合施設長 村井 徹)



大阪水上隣保館の宝物

月に一度、第四水曜日にさくら館横の歴史を感じさせる建物内和室でお茶会が行われています。八重子先生の「子どもたちにお茶会を」の言葉がけて元職員の日置先生が主となり約二十六年前より始められたそうです。日置先生が亡くなられた後も「日置グループ」の名の下、子どもたちと隣保館の自然が大好きな元職員の皆さまが風過ぎからお花や掛け軸などお茶室の準備を始められます。今のメンバーになられて十年余り経つそうです。

子どもたちが「おいしかった」「次のお茶会はいつ?」と楽しみに待ってらっしゃることごとく励みになっており、ほっこりとするお茶会の雰囲気をお話して下さいました。
 (法人事務局 東 世津)



社会福祉法人 大阪水上隣保館

理事長	元大阪府教育長 (学)山崎学園理事長	黒川 芳朝
常務理事	総合施設長	村井 修三
理事	衣目公委計士事務所所長	妹尾 節子
	元島本町民生委員 児童委員協議会会長	早川 須賀子
	代表取締役社長	延原 正海
	元弥栄の郷施設長	岩村 一教
	元島本町民生部長	高木 哲夫
監事	(社)福大阪府社会福祉事業団	川淵 智久
	島本町主任児童委員	落合 洋司
	福祉哲学研究所所長	秋山 智久
評議員	島本町第四地区福祉委員	加藤 啓子
	日本基督教団牧師	徳光 正子
	流通科学大学教授	藤井 敬久
	咲花外楼女将	杉本 美由紀
	サントリースプリング(株)山崎蒸溜所工場長	山田 裕子
	名古屋キリスト教社会館チャプラー	石伏 健治
	同志社大学教授	伊延 なおみ
	元島本町立第二小学校校長	
	大阪府母子寡婦福祉連合会理事・相談役	
	元山崎幼稚園園長	

法人 事務局長	小村 雄史
児童養護施設 遙学園長	山崎 深史
児童養護施設 翼施設長	竹崎 博幸
児童心理治療施設 ひびき施設長	高山 嘉史
大阪水上隣保館 乳児院長	丸谷 邦江
特別養護老人ホーム 弥栄の郷施設長	井上 幸久
山崎 保育園 園長	辻 幸亨
認定こども園 藤の里保育園長	大島 弘之
大阪保育福祉専門学校 校長	安原 千香子
大阪水上隣保館 附属診療所 所長	飯田 享子
ゆりの礼拝堂 名誉館長	野村 義照
学校法人 山崎学園	吉田 美代子

みんなの広場



カット絵・中二 大谷

おむつがグループ？

(遙職員 荒賀 未来)

幼稚園年長組のA君が、初めてグループを使って上手くボールを投げたり拾ったりできた！ということ話を話してくれました。あまりにも一生懸命に話すので、グループを使ってどのようにしたかを説明するのに、勢い余って思わず側にあった幼児さん用の紙パンツを手にはめて説明をしてみました。思わず私は慌てて「おむつはやめて」と声をかけてしまいました。

おむつ

小二 男子

学校から水なせえきまで、いっぱいあるいてつかれました。モノレールはじめてのつたら、なん回もゆれてびっくりました。こうえんについて、アスレチックをしました。トランポリンとすべりだいとおみをのぼるのがたのしかったです。

おんせんプール

小四 女子

五月三日に、おんせんプールに行きました。スライダーで、はやくすべるほうほうを見つけた。さいしょはスライダーをはやくすべるほうほうはしりませんでした。二十五メートルプールも六回ぐらい泳ぎました。熱いプールもありました。熱いプールを二分入ってからちよつとつめたいプールに入るときもちよかつたです。ながれるプールの中に、せなかがきもちよくなるやつをやつたらせなかがきもちよくなりませんでした。遊ぶ時間はすくなかったです。時間があまつたのでちよつとおかいものをしました。また行きたいです。

サワガニ

中一 女子

最近さわがニを飼い始めました。友だちとみなせ川に行った時、友だちがとりました。さきに、トンネルそうじの時に、一匹つかまえていたので、仲間がほしくてつれてかえりました。先生が調べてくれて、えさにはご飯つぶをあげています。小学生もきょうみをもつたので、一緒にせわをしています。これからもおせわします。

春眠暁を覚えず

中二 女子

春休みに「春休みの宿題」をしよつとして頑張つた。けど寝ることを考えたら、ほんまに寝てた。



▼ 沢山悪さやヤンチャをした酒井さんを見捨てず、温かく導いてこられた先生方、すてきです。
大阪市 浜口美知子

▼ 悪さもヤンチャも御心の内です。いっぱい生き生きと生きて下さい。
香川県 横井 武男

▼ 運送会社の酒井さん、今は大変ですがくじけずに頑張つて下さい。いつか三人の娘さんから「産んでくれて」「育ててくれて」ありがとうの言葉がきつと伝えられるでしょう。
名古屋市長 安形 邦男

▼ 日々の全身全霊での奮闘、本当にご苦労様です。未来ある子どもたちに貧困や虐待のない社会をつくるのが私たち大人の責務であることをかみしめています。
大阪市 大橋貴美子

▼ 今年一月に孫が生まれて以来、「水上の友」に載るお子さんたちの様子、会話、発言を以前にも増して楽しく読ませていただいています。乳児院欄のH君の描写：カミカミゴックンはせつかなかちうちの子とそつくりさつそつとカミカミと声をかけて育児ヘルプに励んでいるばあばです。
京都市 村松 光雄(妻記)

「第五十五回桜バザー」のお礼

今年の桜バザーは、四月十四・十五の土日、多少雨の影響を受けましたが、無事に開催することができました。昨年に引き続き、大声コンテスト等参加型のイベントを増やし、楽しんで頂くことをテーマにし、屋外では、吹奏楽やエイサー等のイベント、野菜から古着販売まで、多彩なお店や屋台、子どもたちにはミニSLSやエアトランポリンが人気でした。
ご協力頂きました、多くのボランティア、ご支援者、地域の皆様に心より御礼を申し上げます。
(法人事務局長 小崎雄史)

2018年度 桜バザー会計報告

総収入	¥2,605,755
総歳出	¥2,071,603
純益	¥534,152

計報

- 久保義明さん (二〇一七年十二月十七日召天)
 - 元大阪保育福祉専門学校講師 「高山右近」 研究家
 - 平田政雄さん (二〇一八年二月九日召天)
 - 元法人評議員・(株)シンコー会長
 - 笹原良子さん (二〇一八年四月十一日召天)
 - 元遙学園・大阪保育福祉専門学校職員
- 長年に亘る貴いお働きに心より感謝し、御霊の上に神様の祝福が豊かにありますようにお祈り致します。

児童養護施設
遙 学 園

白熱！ユニカール

五月二十日にみやびワイズメンズクラブ主催のユニカール大会に参加しました。これで、三度目の出場となります。ユニカールとは、専用カーペットの上でプラスチック製のストーンを滑らせはじき出すカーリングと同じルールのスポーツです。今年初めて参加の子どもたちは参加経験のある子からいろいろ話を聞き、当日までユニカールの話題で盛り上がっていました。

会場へ行く電車の中でも、「負けへんしな。」「絶対優勝しような。」等と子どもたちは、大変盛り上がっていました。

みやびワイズメンズクラブさんからルール説明を受けましたが、最初は要領がわからず「どういことなん？」と「とにかく投げればいいんやな？」と質問ばかりでいていましたが、試合がはじまるにつれて、子どもたちは熱くなってきました。遙学園は大人一人と子ども二人を三チーム、子どもだけのチームを一チーム、みやびワイズメンズクラブさんからは二チームの参加で六チームでリーグ戦を行いました。集中できずにウロウロと歩いてしまつ子もいましたが、いざ自分の番になると、目の色が変わりストーンをぶつけてい

ました。チームでは「もつと、こうして：あそこにもむかって投げようや」等と作戦タイムを自主的にする姿もあり、協力し合い頑張っていました。

途中、平昌オリンピックでも話題になったもぐもぐタイムでわらび餅をこ馳走になり、「オリンピックと一緒やな。」「このわらび餅おいしい。」ととても喜んでいました。試合は、逆転につく逆転という白熱した試合になり、遙学園の大人と子どもの混合チームが優勝しました。普段、運動が嫌いな子や外で遊ぶのが苦手な子も本当に楽しそうな表情で、仲間を応援したり非常に良い機会に恵まれました。みやびワイズメンズクラブの皆さんが温かく子どもたちと接して下さったおかげです。試合後も子どもたちのために時間いっぱい遊んで頂き、子どもたちの思いに残る楽しい一日が過ごせました。

(児童指導員 島村裕弥)



児童養護施設
翼

ありのままを受け止める

「寂しいけど翼でがんばるね」と、大好きな小羊保育園との別れを悲しむKちゃん。五歳の女の子です。十二月末に翼のお家に引越してきました。遙での集団生活では、周りの子どもたちや大人の様子を見て動き、生活のペースにのれている子どもでした。

六人で一つのホームという小集団の翼での生活が始まり、「今だ」とばかりに甘えをみせました。赤ちゃん言葉を話したり、職員が帰るから寝ないと言ったり、夕食も「いや」と言って理由をつけては食事の席に来なかったりと。「もしかししたら、これが本当のKちゃんなのかもしれない」と、とにかく職員は彼女を受け止め、抱っこをし、気持ちに聞く等、不安を軽減できるよう支援しました。

そんな日が続いたある夜、寝付くまで側に寄り添っていると、Kちゃんから手を繋いできて「うっちー(職員)の手は冷たいね。温めてあげる」と優しく話しました。そして二人で目をつむっていると「いつも、Kたちのために楽しいことか、考えてくれてありがとう。翼にきて、遙の時よりもうっちーといっぱい仲良くなったね」と話しました。子どもと大人の距離が

近くなったことを言いたかったのだと思います。対応に苦慮していた私は涙が出そうになり、間違いなく大人からのアプローチが届いていると確信しました。Kちゃんはこの春から地域の認定こども園に通っています。

失敗を恐れ、何事にも慎重でしたが、「やってみる」とチャレンジすることが増えました。ゴールデンウィークの外出では馬に一人でのり、自転車の練習も取り組んでいます。週末Kちゃんの部屋をのぞくと、一人でお勉強をしている姿も見られます。今までは単色で登場人物のいない絵を書いていましたが、最近では色が増え、絵の中に物語ができてきています。

少しずつ翼は自分が認められる場所で、ありのまの自分を大人は受け止めてくれるという安心感の中で成長してくれているのではと感じています。

(児童指導員 岩内美花)



児童心理治療施設

ひびき

子どもの笑顔のために

私が大阪水上隣保館で働かせて頂くようになってから早くも七年がたち、この七年間で遙学園とひびき、二つの施設を経験してきました。そして遙学園一年目にJ君の担当になりました。

J君は気持ちのコントロールが難しく、職員に悪態をつけて反発したり、周りの子どもとトラブルになったり、不登校気味になっていました。私はトラブルが起きたら指導する、学校に行くよう促すという関わりだけになっていきました。そのような関係性で、心を開いてくれるわけもなくさらに反発が続きました。

その時、先輩職員から「子どもと向き合っていない、向き合っているつもりになってるだけ」と言われ、その言葉に衝撃を受けました。私はJ君との関りを見直し、時間が空いているときはオセロやキャッチボールをする等指導以外の関りを増やすようにしました。

そんな中J君がひびきに移ることにになりました。そして私自身もひびきへ異動が決まり、そのまま担当を続けていけることになりました。

ひびきでは、分教室があり少人数で授業が出来ること、またJ君のペース

に合わせて学習が進められることで少しずつ登校ができるようになりました。

また、ひびきのルールの中でイライラしたら居室に入ることや、トラブルの状況や、気持ちの整理を言葉で行えるようになっていきました。一緒にお風呂に入り、二人でホッコリする時間も持てるようになりました。今でも、私に反発することがありますが、先日は反発した後「さっきは言いすぎた。ごめんな」と、トラブル対応に追われていた時は周りに促された結果の謝罪だったのが、J君が自分から謝ってくれました。それが今までで最高に嬉しい出来事でした。

そんなJ君も将来に向けて考えなければいけない時期にきています。将来に対する不安や恐れに対して寄り添いながら、しっかりと自立していけるように最後まで一緒に頑張っていきたいと思えます。(ケアワーカー 原田太喜)



乳 児 院

ことばって難しいね

面倒見の良いHちゃん。ブロックでケーキを作って、みんなにお歌を唄ってあげていましたが…。ハッピーバースデートゥーユーが言えず、ハッピーバースデーブーユーと、とっても可愛くて癒された瞬間でした。(保育士 市橋唯花)

初めての誕生日

先月、人生初めての誕生日を迎えたK君。些細な事でメソメソ泣いてしまふことがおおいK君ですが、この日は蝶ネクタイでピシッとまわって、お友達に歌でお祝いしてもらい、ニコニコ笑顔です。初めての誕生日ケーキを食べて顔中クリームまみれで、幸せな一日でした。(保育士 西森菜海)

洗剤好き猫柄のハンカチ

特別好きなおもちゃがなかったRちゃん。ある日突然、洗剤好き猫柄のハンカチを気に入り、他児がそのハンカチを持っていると、貸してくれるまで泣いて追いかけます。貸してもらおうとニコリいつものRちゃんに。(児童指導員 平井絵梨)

大浴場(男湯)への挑戦!

三重県のモクモクファームに一泊旅

貴重な体験

生まれた時から体が弱く、入退院を繰り返しているHちゃん。今日初めての一泊旅行という外の世界を知り大喜び。でも、三重県モクモクファームでは初めて見る牛や豚等、動物を見るたび大号泣しました。

嬉しかったり、びっくりしたことも多い旅行でしたが、彼女にとっては貴重な体験となったことでしょう。(保育士 雲林院美保)



特別養護老人ホーム

弥 栄 の 郷

在宅の生活を支える

ショートステイは、短期入所生活介護とも呼ばれています。ショートステイと言ふ言葉は以前より浸透してきたと思いますが、デイサービス(日帰り)ではない泊りのサービスです。

利用される方・家族の方は様々で、急な冠婚葬祭、介護している方が体調不良・入院等でお世話ができなくなったり、余暇活動・リフレッシュのための旅行等、様々な理由があります。その他として自宅では過ごせない個々の理由で、緊急避難的に利用されるケースもあります。利用したい日(お盆等)に、利用される方が集中したり、医療度が高い方は利用しにくい面があるかもしれませんが、他のサービスもうまく利用され、何らかの負担軽減や気分転換につながればと思います。同時に利用される方が利用され良かった、楽しかった、見知った顔がいて安心できる場所だと言って頂けるようなサービス提供ができればと思います。

利用される方、家族の意向を伺いながら、その人がその人らしく生きて頂くのをお手伝いすることがあればと思います。

(介護支援専門員 川上清明)



大阪保育福祉専門学校

火曜日はチャペルアワー

「神の訓練によって人は真の人となる。真の人とならず、どうして保育者となりうるものであろうか」とは、第四代学校長荒川義治先生の言葉。HOSFENには宗教部があり、火曜日のチャペルアワーやキリスト教保育の授業に加えて、入卒行事のリトリートやクリスマス礼拝、創立者記念礼拝を行っています。礼拝について学生の中には抵抗を感じている人もいますが、人間の本質に関わる重要な学びの時だと考え、出席を義務づけています。

「やさしい目が♪きよらかな目が♪きょうもわたしを見ていてくださる♪」廊下で口ずさまれる讃美歌や、「クリスチャンではないけれど、チャペルのお話しが心に残ってるんです」という言葉を聴くと、キリスト教の種が、学生たちの中で育っていることを実感します。実習や就職、家族のこと、自分の力では解決困難な問題にぶつかったとき、

自分自身の内面の脆さや醜さに打ちひしがれるとき、学生の心の中に自分を超える存在への想いが生まれます。もしかしたら、それが一番シブシブな信仰の姿なのかもしれません。

(副校長 植田彌生)



学校法人 山崎学園

山 崎 幼 稚 園

園庭開放

今年度から子育て支援の一環として、月に一度園庭開放を始めました。

当日は晴天に恵まれ、「おはようございますー」と園庭を見たたん、一目散に大きな滑り台へ。親子で一緒に滑り、とっても良い笑顔で遊んでいる子どもたちでした。保護者の方にお話を伺うと「最近引越してきてきたばかりで、まだあまりどこにも行っていないんです」という方や「ちょっと遠いんですけど、もうすぐ引越してくるので、HPに園庭開放と書いてあったから」とおっしゃっていました。

在園児も入れ替わり立ち代わり、次々と違うクラスが園庭に出てきて、大賑わいでした。在園児の保護者の方は弟や妹を連れて来られ「みんなと遊んでいる様子が見られるので、嬉しいです」とおっしゃり、子どもたちが友だちとすべり台やかけっこをしている姿を見たり、

一緒に遊んだりしておられました。

お母さん同士でも子どもさんのことを等々楽しく話され、みんながニコニコ笑顔で、見ているこちらも笑顔になるような微笑ましい光景でした。

(副園長 大森弘子)



山崎保育園



忍者の修行？

ぞうホーム(三〜五歳児の異年齢クラス)では、「くろずみ小太郎旅日記」の絵本が大人気！散歩に出かける度、「忍者の修行」と言いながら絵本の世界を楽しんでいます。

ある日、みんなで作った折り紙手裏剣が行方不明に：代わりに入っていたのは謎の巻物！「本物の忍者ならきつと手裏剣を探し出すことができるだろう」と、くろずみ小太郎からの挑戦状でした。子どもたちは、「まかせといて〜」と大張り切りで宝探しに出かけました。舞台は旧山崎保育園の園庭です。「絶対見つける〜」と気合い満々で、木の間や草の中から見事に手裏剣を見つけ、忍者になり切り楽しんでいました。

(保育士 呉 智淑)

認定こども園 藤の里保育園



春探し、上手にできました

「春の散策」と銘打った遠足だったので『春の標本作り』をしようという計画しました。春の草花や虫について事前学習をして出かけ、公園に着くとグループごとに春探し開始。採取した草花は画用紙に貼り、虫は力メラに納めました。普段、何気なく見ている花を紙に貼ることで、葉の模様、花びらの色合いの違い等、じっくりと観察していました。図鑑で名前を調べて完成！

しばらく展示し、春の余韻を楽しみました。公園のいろいろな遊具でも遊び、春探しもし、楽しい楽しい遠足となりました。遠足が終わってからは、園庭に出る時には必ず観察ケースと共に図鑑を持って行くようになりました。

(保育教諭 佐古博子)

山崎保育園 地域子育て支援センター



なかよしレンタ

センターでは、月二回おもちゃや絵本を無料で貸し出す「なかよしレンタ」を行っています。おもちゃ一点、絵本は二冊まで、最大一ヶ月間の利用が可能です。親子で一緒に遊びながら「今日はこれにしようか」「えー、こっちがいい」と話しながら気に入ったおもちゃを選んでいかれます。トランプリオンやすべり台等の大きな遊具は買えないし、置いておけないからと、とても人気があります。

また、「遊んでみたらとてもよかったので買いました」との声も聞かれます。親子で楽しい時間を過ごせる手助けができるようにと始まったこの事業は、みなさんにとっても喜んでいただいています。

(主任保育士 松尾尚美)

ファミリーポートひらかた



子育ていつでも電話相談

ポートでは、年中無休で子育て電話相談をしています。昨年度は四四〇件(平日・平日夜間の相談が四分の三)、相談者の九割は母親でした。主な相談内容は、子どもの発達の不安、子どもへの関わり方や育児の悩み等です。話を聴いていると、不安を抱えながら頑張っている姿が浮かびます。顔が見えない安心感からか、様々な感情を交えて話をされます。誰にも話せない気持ちを聴いてもらうことで自分の感情を立て直し、また子どもに向き合えるようになります。話を聴いてよかったなあと思う瞬間です。いつでも親の力を信じて『聴く』ことに徹して取り組んでいきたいと思えます。

(センター長 坂田恭子)

